



※「ほっとだて」ロゴデザイン 保原高校美術部

Contents

第5回定例会議(6月)審議議案	P2~3
一般質問	P4~10
政務活動費	P11
みなさんからの請願・陳情、第4回臨時会議審議内容	P12
頑張っている伊達な人	P13
全国市議会議長会表彰ほか	P14

伊達市議会
ホームページ



<http://www.city.fukushima-date.lg.jp/site/gikai/>

「頑張っている伊達な人」

(☆インタビューは13ページに掲載)

思い出の楽譜を背に



◆第5回定例会議（6月）審議議案◆

会議期間20日間 6月2日～6月21日

伊達市の こんなことが決まりました

議案
11件

人事……………1件

条例の一部改正……………4件

補正予算……………2件

その他……………4件

請願
3件

12ページ
に掲載

この中から3つを **Pick up**
2・3ページに掲載

※全ての議案名と結果は、伊達市議会ホームページをご覧ください。



Pick up 1

小型除雪機の購入・配備を可決！

昨今の降雪状況及び除雪作業の実態等を踏まえて、生活道路などの安全対策を図るために、新たに13台の小型除雪機を購入することを決定しました。予算額は910万円です。

今回購入する小型除雪機は、除雪重機が進入できない狭い道路や歩道の除雪を行うためのもので、サイズについては、1台あたりの重量が184kgで、幅が800mm、全高が1,195mmとなっております。

従来から各地域に配備されていた小型除雪機もありますが、今回新たに購入するものは各総合支所に配備される予定で、冬季に自治会に貸し出しを行うことを想定しております。

なお、小型除雪機の貸し出しに関する手続きやルールなどは、今後検討される予定です。

また、小型除雪機を安全に利用していただくための運転指導の実施も予定しています。



Pick up 2

**さらなる学校教育環境の充実へ！
小中学校へのタブレット端末用
大型モニターの取得導入を可決！**

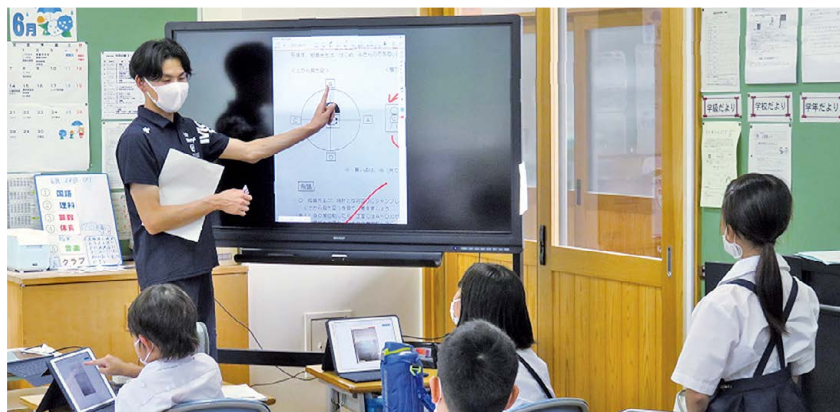
ICT（情報通信技術）を活用した教育を推進するため、小中学校の全クラスに配置するタブレット端末用大型モニターを取得導入する議案を可決しました。

「一人一台端末と高速大容量の通信環境などを一体的に整備し、学びの場にICTを取り入れる」という国の政策に基づき、伊達市でも教育のICT化を推進しています。

令和2年度には、小中学校の高速通信環境が整備され、令和3年度には、小中学校の全児童生徒に一人一台のタブレット端末を導入しております。

現在の授業では、机の上には教科書やノートだけでなく、タブレット端末もあり、多くの市民の皆さんには馴染みのない授業風景となっております。

さらに令和4年度には、黒板の脇に大型モニターが配置され、児童生徒にとってよりわかりやすく効果的な授業が行われていきます。



タブレットを使用した授業風景

Pick up 3

**「サイクルツーリズム×交流」
旧小手小学校が
新たな交流施設として誕生！**

明治7年（1874年）に開校してから146年間にわたり、子どもたちや地域を見守り続け、令和2年（2020年）3月末に多くの皆様に惜しまれながらその歴史に幕を閉じた「旧小手小学校」が、月館地域の新たな賑わい創出の交流拠点として生まれ変わります。

「サイクルツーリズム×交流」をテーマに、賑わいの創出・集客を通じた地域の活性化を目的としてリノベーションし、サイクルツーリズムに特化した宿泊施設、地域交流の場、カフェやテラスがある飲食スペースを設置した月館地域の新たなシンボルとして、令和5年4月にオープン予定です。新たな交流施設が月館地域に誕生します。



交流スペース



簡易宿泊スペース

第5回定例会議(6月)

問

一般質問A答

一般質問では13人の議員が登壇し、市政全般について論戦を展開しました。

一般質問議員と質問項目

■6月7日登壇

大竹 重範

1. 堂ノ内地区大型商業施設開業に伴う行政としての事件事故防止対策
2. 「登録防災士制度」を活用した新たな防災ネットワーク構築

渡邊 尚人

1. 学校の教育環境
2. 公園整備
3. イオンモールの誘致

小嶋 寛己

1. 令和4年3月の地震による橋梁被害とその復旧など
2. 建築物の耐震化など

柳田 武志

1. 公共交通利用促進と公共交通を軸とするまちづくり
2. 教育振興

佐藤 眞也

1. (株)ログ社のやながわ工業団地へのバイオマス発電計画

■6月8日登壇

池田 英世

1. 3月16日福島県沖地震被害による交通問題
2. 農協発祥の地小国地区と佐藤忠望先生

高橋 一由

1. 大型店と過疎対策
2. 水道料金

3. 新たな公共交通機関

佐藤 栄治

1. CCRC事業の進捗状況等
2. 伊達市救急指定病院の災害復旧状態

佐藤 清壽

1. 豚熱とニホンザルによる被害
2. 学校給食の負担軽減支援

■6月9日登壇

河野 裕之

1. 伊達橋の復旧に関する計画
2. 通学路の交通安全対策

近藤 眞一

1. 福島県沖地震被害に関すること
2. コロナ禍や物価高騰等で影響を受けている市民生活への支援策等
3. バイオマス発電所建設に関すること

島 明美

1. 犬猫殺処分ゼロ
2. 小児甲状腺がん
3. 個人情報取扱委託事務規程運用基準の改定
4. 高校生等の通学費補助事業

中村 正明

1. やながわ希望の森公園
2. ヤングケアラー支援
3. バイオマス発電事業

※一般質問の方の欄にQRコードが掲載されています。スマートフォンなどで読み取っていただきますと、録画映像にアクセスできますのでご活用ください。



大竹 重範

■安心安全な暮らしのため地域防犯体制を問う



Q

施設の防犯体制で、防犯カメラ・警

要望していきます。

A

新たな変化に対応するため、従来の活

動に検討が必要だと認識し、警察署や関係団体との連携を図り対策を講じていきます。その中で警察官の増員は必要に応じ福島県に

増員（要望）について伺います。

Q

堂ノ内地区の大型商業施設（イオンモール北福島店（仮称））

開業に伴う、市としての事件事故防止対策について、著しい人の流れや交通量の増加が予想され、事件事故の増加、犯罪発生が懸念されます。事件事故が発生した場合、警察が対応することになります。警察への増員（要望）について伺います。

A

必要対策は、今後、事業者や警察署・防犯協会等関係団体と協議し、先進事例を参考にしながら必要な要望をしていきます。

Q

行政と企業・警察が三位一体となって安全対策を推進するため、事業者の警備員に地域安全パトロール隊としての青パトの委嘱について伺います。

A

全国的に、地域貢献策として取り組んでいる事例があるので、事業者と協力を求めながら、警察署や防犯協会と連携し、今後検討していきます。

Q

災害対策は待ったなしです。地元の防災士を活用した、防災訓練や避難所運営等、地域防災力の向上について伺います。

A

市では、自主防災組織の結成及び活動の支援を行っています。今年度の支援策として、市民の防災士の資格取得補助制度を設けました。今後、有資格者と連携し、なんらかの形で組織ができればと考えています。



■小・中学校のトイレ洋式化を問う



渡邊 尚人

Q 学校の洋式トイレが少なく、困っている児童生徒がいます。小・中学校のトイレ洋式化率を伺います。

A 小学校は73・1%、中学校は49%です。

Q トイレ洋式化が進んでいない中学校3校を伺います。

A 桃陵中が14・1%、松陽中が25・5%、梁川中が32・9%です。

Q 今回、トイレ洋式化が進んでいない桃陵中と松陽中に行き、困っているトイレの現状を見て、現場の声を聴いてきました。

A 学校のトイレ環境に対する市長の考えを伺います。全体的な計画を立て、大規模改修の際にトイレ改修を実施したいが、極端にトイレ洋式化率

の低い学校は、できるだけ早い時期に、トイレ洋式化を進めていきたいと考えております。

■イオンモール開業を見据えた政策は

Q 過去、市職員の時にイオンモール誘致を担当していた私にとって、関心事の一つです。イオンモール開業後、市内に人を呼びこむことが地域の活性化につながります。特に梁川町は、令和元年東日本台風の被害、過疎地域の指定などで今後の対策が重要と思いますが、どのように考えているか伺います。

A イオンモール開業に向けて、昨年から伊達市商工会・保原町商工会と意見交換を開始しています。また、民間企業経験者2名の活用、さらに若手市職員による施策提案プロジェクトチーム活動などで市内周遊策や地域振興策を検討していきます。



イオンモール完成イメージ図

■伊達橋の復旧の見通しは



小嶋 寛己

Q 令和4年3月に発生した地震により、伊達橋が通行不能となっておりますが、その復旧の進捗状況について伺います。また、復旧に要する期間の見通しについて伺います。

A 復旧の進捗につきましては、伊達橋を管理している福島県に確認しました。県からの情報によると、4月8日に国の権限代行による災害復旧事業が決定し、4月11日より現地確認が実施され、4月26日からは、災害復旧検討に向けた現地調査の一環として、測量作業が行われ、順次必要な調査を実施しているとのこと。なお、復旧に要する期間の見通しにつきましては、まだ調査を進めている段階であるため、示されていません。

Q 伊達橋が通行不能となったことにより、大正橋やその周辺の道路における渋滞の発生や交通量の増加が認められます。このような状況変化は、ときに交通事故等を誘発する可能性があると考えられますが、どのように対策していく考えであるか伺います。

A 伊達橋が通行止めになったことにより、周辺道路では車両の流れが変わり、交通量が多くなっている場所などがあることは認識しております。このため、福島県が事務局となり、一般交通の安全確保等について、道路管理者や関係機関と情報を共有し、連携・協力して、復旧を進めることを目的とした「国道399号伊達橋等被害に伴う交通対策会議」を開催しております。これまでの会議における協議の結果、「交通誘導のための迂回路看板の設置」、「交差点の安全確保とスムーズな交通誘導のための信号サイクルの変更」などの対策が実施されております。今後も交通状況の変化を見ながら、毎月1回を目安に会議を開催し、対策を講じていく予定です。



■公共交通の重要性を問う



柳田 武志

Q バス、鉄道の重要性について、伊達市はどのような認識が伺えます。

A 二酸化炭素排出量の減少など、環境への負荷が低減されるため、重要であると認識しています。環境の面や高齢者対策の面からも、公共交通の役割は大きいと認識しています。

Q 伊達市は現在、バス、鉄道の利用促進を図るためにどのような取組をされているのか伺います。

A それぞれの運行事業者が行う割引制度やイベントなどにつきまして、市政だよりを通じて利用促進を図っているところです。

Q 高齢者の運賃無料化や障がいのある人への運賃助成について、どのように考えているのか伺います。

A 現在、市が行っております高齢者や障がいのある方への運賃支援

といたしましては、運転免許証を返納された方へのデマンド交通の利用の助成、障がい者手帳保有者のタクシー利用助成、障がい施設通所者への交通費助成、人工透析治療者への交通費助成など行っています。なお、今年度、デマンド交通の見直しを行うこととしています。いろいろな課題がある中で、高齢者の運賃支援の在り方などについても議論したいと考えております。

Q 旧5町を結ぶ交通網や中山間地域の移動手段について、伊達市の考えを伺います。

A 旧5町それぞれの地域を結ぶ交通網につきましては、阿武隈急行、路線バス、定路線型のデマンド交通により対応しております。地域公共交通計画に基づきまして、現在公共交通網の見直しを進めているところです。

Q 環境問題や高齢者の事故防止、地域の発展のため、公共交通を軸としたまちづくりが必要だと考えます。伊達市に構想があれば伺います。

A 市内には、市外を結ぶ広域的な移動手段、旧5町の地域間の移動手段、地域内の移動手段と、3つの公共交通網が整備されておりますが、これら公共交通網の再構築を図り、将来にわたって持続可能な公共交通網を目指して取組みを進めたいと考えています。



■梁川バイオマス発電、市長の考えを問う



佐藤 眞也

Q やながわ工業団地に事業者が計画している建築廃材と廃プラスチックを燃料とするバイオマス発電計画は、梁川地域の住民が一致して白紙撤回を求めています。約9,000人の反対署名と市議会全会一致の反対決議を市長に提出しております。建設予定地東側には、梁川認定こども園と梁川小学校が隣接し、梁川の市街地が広がっています。しかし、現場では工事が始まっているのではないかと困惑しています。また、地下水の使用量は一日最大2,556トンを含み上げ、726トンの温排水を側溝へ垂れ流すという、地域住民には到底受け入れられない計画です。地域住民に対してどう

A ご説明するか伺います。井戸の揚水調査の工事とは認識しております。いまは土をならして、我々は本体工事着手という認識をしています。揚水試験の結果は、事業者から、期間中に近隣の企業や農家から地下水への影響に係る連絡はなかったと受けています。

Q 事業者からの報告書については、人の健康に関わることで外部団体にきちんと調査していただき、徹底的に追及する必要があります。事業者が土地を購入して2年7か月の間、この計画は市民には全く知らされていませんでした。こども事業者を追及できると思います。追及するには、市民団体、議会、伊達市が一丸となつて対応すれば解決すると思えます。市長の考えを伺います。

A 事業者が創業した後に、おいても事業者の報告書の数値を見ていき、そして監視していく。そのための協定をしっかりと結んでいくことが必要だと思っています。



■農協発祥の地、小国地区と佐藤忠望先生について



池田 英世

Q 小国信用組合を設立した佐藤忠望先生についてお示しく下さい。

A 寛永5年に上小国村に生まれ、明治15年から県議会議員を3期、その後県北で初の衆議院議員を2期務めました。明治31年、郷里に上小国信用組合を創設。明治33年、産業組合法公布の翌年認可された無限責任小国信用組合の初代組合長に就任。3年後、惜しまれながら享年53歳の生涯を閉じました。

Q 佐藤忠望先生を顕彰する団体に、市は支援を行えないか伺います。

A 佐藤忠望先生の偉業を後世に引き継ぐ必要性から、歴史文化資料館職員の技術的支援や地域

担当職員、生涯学習指導員等が支援し継承を進めます。

Q 伊達市の偉人継承プランを作成すべきと思うが、市長の見解を伺います。

A 郷土の偉人は市の誇りです。生涯学習の時間等々で市民が学ぶ機会を共有する仕掛けづくりをしていきたいと考えています。

■3月16日福島県沖地震被害による交通対策を問う

Q 3月16日の地震による市道の被害状況と対策について伺います。

A 市道の被害件数は160か所で、修繕は、5月末時点で113か所完了、経過観察が21か所、残り26か所は10月頃完了の見込みです。

Q 県の自転車活用推進計画を踏まえ、市でもこれを機に推進すべきと考えるが、市長の見解を伺います。

A 市において自転車を活用した観光を進めています。健康面、SDGsの観点からも自転車での通勤・通学など周知をしていきたいと考えています。



■イオンモールに公園を



高橋 一由

Q イオンモールの開業が順調に推移し完成に向っていますが、まずはメリットについて伺います。

次に、当時の伊達町民アソシエイトでは公園が設置希望の1位でした。その時のイオンの担当者は公園設置を了解していました。区画整理組合に6億円支出した市は、実現が可能か伺います。

更に、伊達駅からイオンまでの移動手段も斬新な方法が重要かと思いますが、検討されているか伺います。

A 仮定での税収になりますが、固定資産税は、土地4000万円、家屋1億7000万円、償却資産1600万円。法人市民税は、6000万円程度となっています。個人市民税は、流動的ですが、県民税は、3,000人の雇用を期待しています。また、災害時

の支援体制も重要な要素と捉えています。

次に、公園の設置ですが、現在様々な内容について、イオンと協議中です。その中で駅からの移動手段も含めて、検討してまいります。

■梁川の過疎化に歯止めを

Q 梁川地域の過疎化対策として、世界一の美しい町を作って、年間1,500万人が訪れるイオンの集客を誘導してほしいと思います。また、市役所職員を梁川総合支所庁舎の勤務に戻して、昼間人口を増やし地域活性化を図れないか伺います。

A 今後のまちづくりは、美しい町づくりも重要です。歴史観光も含め、力を入れてまいります。梁川総合支所はコロナ禍の中、通信環境が整備され、パソコンがあれば仕事が可能となっていますので検討いたします。

Q 水道料金減額についての現況を伺います。

A この先の社会情勢では、値上げも必要になると予想されます。現状維持の料金にご理解をお願いいたします。



■伊達市救急指定病院の災害復旧状態について



佐藤 栄治

Q 伊達市救急指定病院は、3月16日発生の地震でどのような被害・被害があったのか、わかる範囲で説明願います。

A 消防法第2条9項の規定により、本市では北福島医療センターが該当し、3月16日の地震によりまして大きな被害を受けたと認識しております。

Q 被害を受けた北福島医療センターについて、現状ではどこまで回復できたのか掌握している範囲で説明願います。

A 3月16日の地震におきまして、被害が建物全体におよんでおりまして、玄関、救急棟、病棟、治療棟に大きな被害を受けただけでなく、基礎部分、壁面損壊、ガラス損傷、地

盤沈下、アスファルトの亀裂など広範囲に被害がおよんでおります。

Q 伊達市の救急指定病院だけでなく、医療法4条に定める地域医療支援病院ですから、伊達市が財政支援し直すことは出来ないか伺います。

A 広域的な救急指定病院でありますから、福島県に対して災害復旧に関わる補助金の補助率、補助上限の引き上げなどの要望を出させていたいただいております。

Q 地域医療の確保や2次救急医療体制の構築のために、伊達市の財政調整基金の取り崩しはできないのか伺います。

A 今現在、国のグループ補助金等を使って復旧に向けてすすめている最中です。



■学校給食費の負担軽減支援を望む



佐藤 清壽

Q 小・中学校の学校給食費の1食当たり単価、そして年額を伺います。

A 給食の1食当たりの単価は、小学校の場合273円。中学校は315円となっております。年額につきましては、年間の標準の給食回数が190回程度ということで積算しますと、小学校の場合は5万1870円、中学校は5万9850円となっております。

Q 給食費の支援、これは設置者の判断でできるとして、福島県内では43の自治体が、学校給食の補助を行っています。近隣市町村では今年の4月から国見町、川俣町で無料化を実施しています。桑折町は半額の補助、福島市は70円の補助をしています。

近隣市町村の中で学校給食費の支援をしていないのは伊達市だけとなってしまいました。このことについて所感を伺います。

A 給食費の支援については学校設置者の判断であるという考え、認識について変わりはなくあります。学校給食費の無料化、一部助成等を行って、給食費の軽減措置を講じている自治体が増えていくということは承知をしているところであります。

Q 文部科学省初等教育局長より、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用について通知があり、「学校給食などの保護者負担の軽減に向けた取組を進めていただくようお願いします。」とあります。この臨時交付金の活用で学校給食費の軽減を求めます。

A 今回、原油高騰によって食材が高騰している中で、子どもたちに栄養価の高いという思いがあります。市としては、地方創生臨時交付金を活用いたしまして、保護者の負担を増やすことなく良質な食材の給食を子どもたちに提供できるように検討していきたいと考えています。



■伊達橋の復旧計画について問う

Q 日常を取り戻し、市民の期待に沿う早期復旧を実現するため、復旧方法の検討に市として今後どのように関わっていくのか方針を伺います。

A 市として早期復旧を望み、復旧に関する進捗があった場合には、遅滞ない情報提供を国、県に要請し、その内容を市民に周知していきたいと考えます。

Q 通行止めにより、周辺企業に甚大な影響が生じていますが、当面の経営戦略を構築するにあたり、復旧完了までの工程表の明示を望む声が多く挙がっています。本件に関する情報発信の充実についての市の方針を伺います。

A 復旧に関しての情報発信は非常に重要だと考えています。復旧方法・工事着手時期・完成時期等について国や県から情



河野 裕之

報が出てきた場合には、しっかりと周知を図りたいと考えています。

■通学路等の交通安全対策強化へ！

Q 通学路に関する改善要望について、改善に至らなかった事案にはフィードバックをし、確実な安全確保へ向けた新たな仕組みの構築が必要と考えます。市の方針を、お示しください。

A 自治体や市民団体の思いをしっかりと関係機関に届け、要望に至らなかった場合については、その中身を確認するとともに、代替策を講じることが大事と考えます。

Q 住宅地の増加とともに道路の危険箇所について、現況確認と安全性の確立をどのように進めていくのか方針を伺います。

A 警察署や交通安全協会など、対策方針の協議などを行いながら、看板等の設置を含め、必要な対策を講じるとともに、教育機関や地域の方からの信号機などの安全施設の設置要望については、警察署に対して伝えるべきことを伝え、要望実現に向けた取り組みを行っていきます。



■コロナ禍と物価高騰、市民への支援策を

Q 国が示している、「コロナ禍において物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援」の中に、ひとり親家庭の子どもへの食事等支援事業の強化として、ひとり親家庭等の子どもへの食事等支援事業には支援内容を食事提供のみならず、併せて学用品、生活必需品の提供なども行うとあります。ひとり親家庭に限らず子育て世帯の教育費の負担は重いですから、教育費の負担軽減について考えや取組等お示しください。

A 学用品等の教育費の支援については、就学援助制度により家庭の経済状況が厳しい子どもたちへの支援・援助を考えています。また、制度の周知不足による申請漏れがないように周知徹底を図っています。



近藤 眞一

きます。学校での教育費については、例えば、今まで使っていたからそのドリルを全ての子どもたちが購入するのではなく、教員の負担軽減を考慮しながら手づくりするなど、少しでも減らせるところは減らしていく努力はしていかねばならないと考えています。

Q 地方公共団体の実施する原油価格高騰対策に係る地方交付税措置には、原油価格高騰対策に係る特別交付税措置により生活困窮者等に対する灯油購入等の助成等の地方公共団体が実施する原油価格高騰対策への財政支援をきめ細かく行うとあります。当市では昨年、福祉灯油券給付事業を実施していますが、金額の増額や対象を広げるなどして、今冬も実施するべきだと考えますが見解をお示しください。

A 特別交付税措置による対策については、昨年度冬季における経済的負担軽減を図るために生活困窮者に福祉灯油券給付事業を実施しました。この事業を検証しつつ、伊達市における支援策について検討したいと考えております。



■犬猫殺処分ゼロについて



島 明美

Q 犬や猫への避妊去勢手術費用の助成をしている自治体があり、尊い命を守ることに繋がっています。伊達市でもNPO法人や市民と連携し里親探しの譲渡会などの実施など切望します。犬猫殺処分ゼロへ向けて市長の考えを伺います。

A 犬、猫殺処分を防止するためには、不妊手術、避妊手術というのが非常に重要だと思っています。今回の質問の趣旨を受け止め検討していきたいと考えています。

■高校生等の通学費補助事業について

Q 補助される対象は公共交通機関利用に限り1か月定期券の場合、1万5000円を超えた額での補助ということですが、

他自治体の同類事業は、7000円から1万2000円の補助が多く、丸森町、角田町では、阿武急定期代2/3補助。二本松市は、自宅から高校までの距離で年間2万5000円補助があります。伊達市の子育て支援として充実させ、公共交通機関が通っていない地域の発展のためにも見直してはどうでしょうか。

A 今回の通学支援制度は、過疎地域の交付金を活用したもののため、この内容で実施していきます。他の自治体等の内容を精査し、持続的にこれから長い間利用できる制度としてどういうものがあるか検討していきたいと考えています。

■小児甲状腺がんについて

Q 福島第一原発事故後に始まった県民の甲状腺検査で予想を数十倍以上も上回る甲状腺がんが検出されています。伊達市での甲状腺がんは2015年時点では9名でした。現在の発症人数について伺います。

A 県内での発症人数は274名（手術済227名）、伊達市での発症人数は把握をしていません。



■バイオマス発電事業について



中村 正明

Q 須田市長は、令和3年12月定例会議の中で、「バイオマス発電事業は認められない」と答弁されております。令和4年5月23日、事業者からの説明会があらためて開かれました。説明を受け、市長の考え方に変化が生じたのかどうか、見解を伺います。

A 事業者は、法令基準にのっとり、正直に正確に説明されたものと認識しております。事業者が示した数値が、示された数値のとおり事業が運営されるかどうか非常に重要だと思っております。

Q 市民団体の皆さんは、多岐にわたる疑問点が未解決、市の行政指導に対しても厳しい見解を示しております。今後どのようにして市民の理解を求めていくのか、見解を伺います。

A 市は、事業者から受けました説明の内容を、5月27日、市民団体の代表の方へ報告させていただきました。市民団体などから様々な意見や疑問などをいただいております。今後は、規制基準がしっかり順守されているか監視していくとともに、本稼働前に「協定」という形できちんと締結したいと考えております。第三者も関与できるモニタリングの実施、市民への情報発信のあり方など検討してまいります。市民の安心・安全を第一に、事業者には市民に寄り添った対応を求めています。

■やながわ希望の森公園について

Q 開園から37年、まちづくりと一体となった整備構想計画について伺います。

A 現在、梁川総合支所を中心に、公園の再整備事業の検討に着手しております。プロポーザル方式で基本計画を策定し、利用者のニーズに即した公園の改修を進めてまいります。可能な範囲で市民の皆さんから意見を取り入れられるような機会を設けてまいります。基本計画は今年度内に、次年度以降に着工の予定で進めてまいります。

『公表します 政務活動費』

本市では、議員の調査研究その他の活動に必要な経費の一部として、議員一人当たり月額3万円の政務活動費を所属の会派（会派に所属しない場合は議員）に交付しています。

その収支については、毎年度議長に報告し、残額がある場合は、市に返還しています。

令和3年度の収支状況は次のとおりですが、収支報告書の内容については市議会ホームページにも掲載しています。

また、9月以降、収支報告書の写しは議会図書室で閲覧できますので、議会事務局までお問い合わせください。

令和3年度 政務活動費精算一覧表

(単位：円)

会 派 名		フォーラム 伊達・公明	[きょうめい]	日本共産党 伊達市議団	創 志 会	伊 達 市 民 ク ラ ブ	無 会 派	無 会 派	無 会 派	合 計
会 派 構 成		大條 一郎 池田 英世 佐藤 直毅	八巻 善一 菅野 喜明 丹治千代子	佐藤 清壽 近藤 真一	佐藤 実 伊東 達朗 大和田俊一郎 安藤 喜昭	小野 誠滋 池田 順子 菊地 邦夫 (原田建夫)	佐藤 栄治	半澤 隆	高橋 一由	
収入内訳	交 付 額	1,080,000	1,080,000	720,000	1,440,000	1,170,000	360,000	360,000	360,000	6,570,000
	利 子	6	5	1	10	7	0	1	0	30
会派の収入合計		1,080,006	1,080,005	720,001	1,440,010	1,170,007	360,000	360,001	360,000	6,570,030
支 出 内 訳	研 修 費	0	13,000	0	0	53,080	0	0	36,186	102,266
	調査研究費	0	0	0	0	0	34,067	0	0	34,067
	要請・陳情 活 動 費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	会 議 費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資料作成費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資料購入費	71,092	138,536	0	9,972	0	137,159	29,772	9,972	396,503
	広 報 費	127,829	0	505,328	0	0	0	0	0	633,157
	広 聴 費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事 務 諸 費	54,438	118,435	30,384	60,768	49,374	125,427	35,112	15,192	489,130
	その他の経費	6	5	1	10	7	0	1	0	30
会派等の支出合計		253,365	269,976	535,713	70,750	102,461	296,653	64,885	61,350	1,655,153
収 支 差 引 額 (市への返還額)		826,641	810,029	184,288	1,369,260	1,067,546	63,347	295,116	298,650	4,914,877

※1 無会派 小嶋寛己議員、中村正明議員は、政務活動費の交付申請を行っていないため、掲載されておりません。

※2 伊達市民クラブ 原田建夫議員が令和3年6月18日にご逝去されたため、7月以降は3名分の交付額となっております。

【政務活動費使途基準】

研 修 費	・研修会・講演会の開催に要する会場費、講師謝金等の経費 ・研修会・講演会の参加に要する会費、旅費等の経費
調 査 研 究 費	・先進地調査又は現地調査に要する旅費、調査委託に要する経費
要 請 ・ 陳 情 活 動 費	・要請・陳情を行うために要する旅費、印刷製本費等
会 議 費	・会派（会派に所属しない議員）が行う会議の開催に要する会場費 ・他の団体が開催する意見交換会等会議の参加に要する会費、旅費等の経費
資 料 作 成 費	・会派（会派に所属しない議員）が行う活動に必要な資料の作成に要する印刷費、写真代、消耗品等の経費
資 料 購 入 費	・会派（会派に所属しない議員）が行う活動に必要な新聞、図書、雑誌等の購入費
広 報 費	・調査研究活動・議会活動及び市の施策等の広報活動に要する印刷費、会場費等の経費
広 聴 費	・市民からの市政に対する要望・意見を聴取するための会議開催に要する会場費、資料印刷費等の経費
事 務 諸 費	・パソコン等の事務機器リース・購入、事務消耗品等の購入、通信等に要する事務経費
そ の 他 経 費	・上記以外で会派が行う活動に必要な経費

みなさんからの請願・陳情

令和4年第5回定例会議（6月）で受理したのは、請願3件でした。

所管の委員会に付託して審査し、委員長が本会議に審査結果を報告、採決の結果、次のとおり決定しました。

受理番号 受理年月日	請 願 件 名	付託委員会	結 果
第2号 令和4年5月13日	地方財政の充実・強化を求める意見書 提出請願書	総務生活常任委員会	採 択
第3号 令和4年5月18日	保原町所沢字久保畑内道路整備に関する請願書	産業建設常任委員会	継続審査
第4号 令和4年5月23日	「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	文教福祉常任委員会	採 択

令和4年第4回臨時会議を開催しました

新型コロナウイルスワクチン接種関連経費、コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に係る低所得世帯等に対する特別給付金給付事業、令和4年3月16日発生の福島県沖地震による災害復旧関連経費等について、予算の補正を行うため、5月17日（火）に臨時会議を開催しました。

市長から提案された案件は、補正予算1議案（令和4年度伊達市一般会計補正予算）でした。補正予算は所管の常任委員会に付託し、審査の後、本会議で採決し、原案のとおり可決しました。

○一般会計補正予算

補正額 373,196 千円

財 源 【国庫支出金339,318千円】 【県支出金780千円】 【繰入金18,658千円】
【諸収入140千円】 【市債14,300千円】

事業内容

1 感染症予防事業（新型コロナウイルスワクチン接種）	138,760千円
2 子育て世帯生活支援特別給付金給付事業	79,710千円
3 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業	86,528千円
4 地域経済活性化事業（地方創生臨時交付金事業）	30,000千円
5 集会所建設等事業費補助金交付事業	3,000千円
6 地域経済活性化事業（市制度資金保証料補助）	5,376千円
7 木造住宅耐震診断支援事業	5,000千円
8 木造住宅耐震改修支援事業	11,040千円
（11,040千円のうち5,520千円は市営住宅維持管理事業からの予算組替補正）	
9 その他公共施設・公用施設災害復旧事業	9,606千円
10 文教施設災害復旧事業	9,696千円

「頑張っている 伊達な人」

今回は長年音楽活動が続けている「伊達市コーラスの仲間たち」元会長の相馬修（そうまおさむ）さんにお話をお聞きしました。昭和7年3月生まれの90歳で、いまでもヴァイオリンやピアノ、オカリナを演奏する音楽家です。



相馬さんの自宅にて

●広報委員
略歴をお聞かせ
ください。

◆相馬さん 梁川町字内町の
実家で昭和7年に生まれ、今
年で90歳となりました。父は
大工で、母は専業主婦でした。
旧制保原中学校を卒業後、音
楽と英語の中学校教員とし
て、梁川中学校や伊達中学校
などに赴任し、38年間勤務し
ました。その間に、東京芸術
大学と法政大学の通信教育を
履修したり、アメリカのミネ
ソタ大学とブラウン大学へ派

◆なぜ音楽に興味を持ったの
ですか？

◆旧制中学を卒業した後にす
ぐ教員になった人を代用教員
と言います。私は代用教員で
したので、教員臨時養成所に入
所することとなり、選択科
目を音楽としました。このこ
とがきっかけです。また、父
が琴と尺八をやっていたこと
も音楽の道に進んだ理由かも
しれません。

●教員時代の思い出を教えてください。

◆38年間の教員生活では、両親の忌引き休暇以外に休暇を取ったことが無いくらい身体が丈夫でした。また、教職員スポーツ大会に伊達郡代表として出場し、400m走や砲丸投げなどの10種競技で優勝したことが良い思い出です。

●地域で音楽の活動をしたと思うたきっかけは何ですか？

◆アメリカのブラウン大学へ派遣研修に行っている時に、ボストン交響楽団の指揮者であった小澤征爾氏と出会い、自分も音楽の団体に指揮をとりたと思うようになり、教員退職後、合唱団やオカリナ教室などで指導を始めました。

●音楽活動での思い出を教えてください。

◆市内にある複数のコーラスグループを一つの組織とした「伊達市コーラスの仲間たち」を結成し、東日本大震災の5か月後に「第一回ももの里コンサート」を実施したことが思い出深いです。このコンサート開催に向けて一生懸命練習していたのに地震の影響で会場が使えなくなり、さらに原発事故もあり実施が難しくなりましたが、念願のコンサートを開催することができ、とても嬉しく思いました。また、毎日夕方流れている「伊達市歌」制定に関われたことも思い出深いです。市歌は「伊達市合併10周年記念式典」の際に「伊達市コーラスの仲間たち」の合唱で初披露しましたが、その指揮者は私でした。

◆今年音楽指導を勇退したとのことですが、今後やりたいことは何かありますか？

◆何人かの音楽の仲間から90歳の記念に「卒寿コンサート」を開催してはどうかと提案されています。現在開催するかどうか、妻と相談していますが、開催するのなら、全て私が作曲した楽曲でコンサートを開きたいと考えています。

●90歳とは思えない元気ですが、元気の秘訣を教えてください。

◆好き嫌いのない何でもよく食べることとよく寝ること



伊達市合併10周年記念式典で指揮する相馬さん

ですね。私は嫌なことがあっても布団に入れば5分もかからず寝ることが出来ます（笑）。お酒は飲みません。

●地元梁川町の良いところはどんなところですか？

◆水害を何度か経験しているせいか、「助け合う」という気持ちを持つ人が多いと感じます。そのような風土が好きです。

●若い世代に言いたいことはありますか？

◆デートをする若者が少ないというニュースを見て驚きました。若者には人を好きになり、人とお付き合いをして、人と関わることの楽しさを知り、心を育てて欲しいと思います。

●本日は貴重なお話をありがとうございました。

全国市議会議長会の特別表彰、 一般表彰を受賞しました

第98回全国市議会議長会定期総会において、地方自治の発展に寄与した功勞により、本市では、高橋一由議員〔議員在職25年以上（特別表彰）〕、菊地邦夫議員〔副議長在職4年以上（一般表彰）〕の2名が表彰されました。



左から、大條一郎副議長、菊地邦夫議員、高橋一由議員、菅野喜明議長

農産物の降ひょう害等の 対策についての要望

令和4年6月3日の降ひょうにより、伊達市の農作物に被害総額6061万5000円（6月13日現在）の大きな被害が発生しました。

被害面積は、果樹で37,05ha（内訳もも7,52ha、かき28,12ha、りんご1,3ha、プラム0,11ha）。

被害額は、5534万6000円。最も大きな被害は「もも」で被害額3371万4000円、「かき」で被害額1666万9000円等、野菜では被害面積1,85ha、被害額で526万9000円の発表がありました。

特に深刻な地域は月舘町糠田地区、霊山町小国地区で直径2cmほどの大粒の降ひょうにより果樹、野菜に傷がつき出荷できない状況になっています。

令和2年は「もも」の穿孔細菌病の大発生、令和3年は4月中旬の凍霜害により、「もも」、「かき」等に甚大な被害を受け、令和4年は降ひょう害により打撃を受け、農家の栽培意欲の低

下と農業経営の安定を脅かす事態となっています。

栽培管理に取り組む農家を守り、生産意欲向上に向けた支援の「要望書」を次のとおり産業建設常任委員会でもとめ、議長から市長へ提出しました。

- 1、被害を被った農家に対し、早期に支援対策の方向性を示すこと。
- 2、樹勢回復のための肥料、農薬、植え替えが必要となる苗木等の改植費用、ビニールハウス張り替え費用等被害による追加経費について負担軽減を図ること。
- 3、降ひょう被害を受けた傷害果の販売ルートや加工も含めた販路を確保すること。
- 4、農業経営の安定を図るため、収入保険や共済制度の普及啓発と掛金の負担軽減の拡充を図ること。
- 5、農業経営継続のため、経営安定資金対策として無利子融資制度適用の資金を国、県に要請すること。

編集後記

2022年3月16日に発生した福島県沖地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この地震により、阿武隈川にかかる伊達橋が深刻なダメージを受けて通行不能になるなど、市内各地で様々な被害が発生しました。

今回の地震による被害を目の当たりにして、あらためて自然の驚異を実感すると同時に、より一層、防災・減災対策を推進することが必要であると痛感しました。近年の福島県伊達市は「災害は忘れる前にやってくる」といった状況ですが、それでも前を向いて、ともに歩んでいきたいと思います。

さて、今年4月に執行された伊達市議会議員選挙において新たに議員が選出されたことに伴い、議会広報委員会のメンバーも変更され、新体制でスタートすることになりました。

メンバーの平均年齢も若く、また、ほとんどのメンバーが初当選の新人という委員会です、至らない点も多々あると思いますが、伊達市議会に関する情報を市民の皆様にはわかりやすくお伝えすべく努力してまいりますので、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

議会広報委員会

委員長	小嶋 寛
副委員長	渡邊 尚己
委員	河野 裕之
委員	島野 明美
委員	大竹 重範
委員	佐藤 眞也